

独立行政法人福祉医療機構
令和5年度(補正予算)社会福祉振興助成事業

民間と行政が連携して行う 生活困窮者に対する食料支援事業 活動報告書

社会福祉法人政典会

【協力】霧島市
一般財団法人鹿児島県フードバンクセンター



REPORT



INTRODUCTION

はじめに

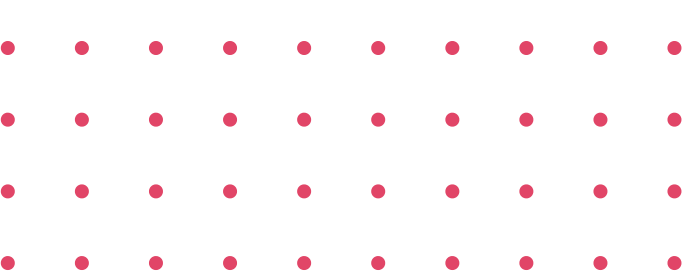
社会福祉法人政典会では、鹿児島県経営協が実施する「思いやりネットワーク事業」を通じて相談対応を行う中で、食料などの現物給付による一時的な支援が、当事者の生活再建への第一歩となることを実感してきた。実際に、「食べることで生きる力が湧いた」「食べる喜びが前向きな気持ちを生んだ」といった声も寄せられ、食の支援の重要性を改めて認識する機会となった。

一方で、支援を受けることに対して相談をためらう方々がいることも明らかになった。地域福祉の現場では、社会的養護を受けて育った子どもや若年層の孤立、既存の支援制度から漏れる人々の増加が課題として挙げられている。

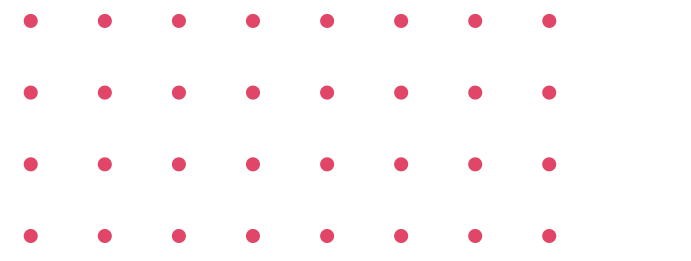
こうした背景を受けて、当法人は本事業において、地域の企業・団体・行政と連携し、気軽に食料を受け取ることができる「コミュニティフリッジきりしま」を設置した。支援を「選ばれるもの」へと転換し、利用者の尊厳を守りながら地域とのつながりを育む、新たな社会的インフラとしての可能性を模索する取り組みである。

本報告書では、本事業の取り組み内容、得られた成果、課題、そして今後の展望について報告する。





目次



1. 目的
2. 事業概況
3. 子育て世帯への食料品等の支援
4. 成果と今後の展望
5. 課題と改善点
6. まとめ

目的

地域で支える、新しい支援のかたち。

本事業は、物価高騰や社会的孤立など、さまざまな困難を抱えた人々が支援制度の狭間に置かれ、十分な支援を受けられない状況に対応するため、民間と行政が連携し、食料等の無償提供を通じた生活支援を行うことを目的としている。

特に、支援を受けることへのためらいや戸惑い、制度への不安から相談を躊躇する方々に対しても、気軽に立ち寄れる支援の手段として「みんなの公共冷蔵庫 コミュニティフリッジ」を設置した。

誰もが安心して利用できる、やさしく開かれたしくみを地域の中に築いていくことを目指している。

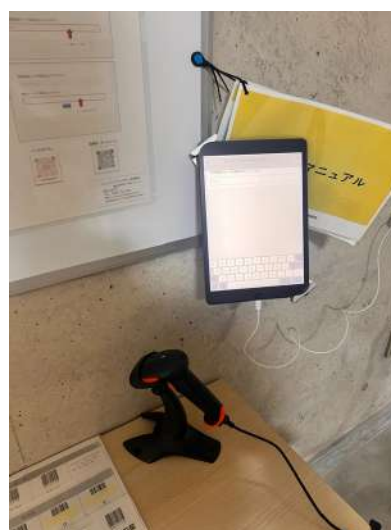
事業概況

柱立て 1 生活困窮者の食料支援事業

経済的困窮や孤立といった課題を抱える生活困窮者に対し、「みんなの公共冷蔵庫（コミュニティフリッジ）」の設置と運営を通じて、食料品等の無償提供と相談支援への接点づくりを目的とするものである。

設置された公共冷蔵庫は、地域住民・企業・フードバンクなどから寄せられた食品等を保管し、24時間体制で誰でも自由に持ち帰ることができる仕組みで、支援を求めることにためらいのある方々にも配慮した設計とした。

本取り組みは、既存事業の拡充として、すでに地域で行われていた食支援活動をベースに、より多くの方に届くよう体制を強化したものである。加えて、公共冷蔵庫の利用を通じて、利用者との自然な接点生まれ、生活困窮に関する悩みや制度へのアクセスについての相談支援へとつなげる役割も果たしている。地域ボランティアや関係機関との協力体制を築きながら、地域全体で支え合う仕組みを構築し、継続可能な支援モデルの実現を目指している。



利用者はスマートフォンを通じて発行される「電子キー（デジタル開錠）」により、冷蔵庫を開けることができる

食品等は地域住民・企業・フードバンク等からの寄付により調達

事業概況

柱立て2 スタッフ育成講座の実施

本事業では、「みんなの公共冷蔵庫（コミュニティフリッジ）」を円滑かつ持続的に運営するための基盤づくりとして、スタッフ育成講座を開催した。単なる作業手順の指導にとどまらず、支援を必要とする方々への理解を深め、地域で支え合う意識を育むことを目的とした。

講座では霧島市の担当職員から、生活困窮や社会的孤立の実態、支援の際に留意すべき点、制度の仕組みなどについて専門的な視点から説明が行われた。参加者は、日常的に冷蔵庫の運営に関わるスタッフだけでなく、地域ボランティア、さらには地域貢献に関心を持つ高校生も含まれており、世代を超えた学びと交流の機会となった。特に高校生にとっては、「地域の中で自分にできること」を考えるきっかけとなり、実際の活動に前向きに関わる姿勢が育まれた。その他、講座では、スマートフォンを用いた電子キーの操作方法や、利用者への案内の仕方など、実務的な内容も含まれており、安心して現場で役割を担えるよう配慮された。講座を通じて、関わる一人ひとりが「ただ支援する」ではなく、「ともに支える」という意識を共有することで、地域全体が公共冷蔵庫の活動を自分ごととして捉える土台が築かれつつある。



スタッフ育成講座の実施
に講義



市と連携して高校生ボランティア



一般市民向けにポスター掲示による食料支援の説明



事業概況

柱立て 3 事業の啓発活動

地域における支援の理解促進と共感の輪を広げるため、「みんなの公共冷蔵庫（コミュニティフリッジ）」のスタートアップ企画として、映画『美味しいごはん』の上映会と主演・ちこ氏によるトークショーを実施した。本作は、食を通じた人生の再生を描くノンフィクション作品であり、食べることの大切さや人とのつながりを見つめ直す機会を提供するものである。2024年7月27日、霧島市において無料開催し、行政との連携体制のもとで実施した。当日はフードドライブも同時開催し、参加者が持ち寄った食品を必要とする家庭に届ける仕組みを紹介した。会場では高校生ボランティアが活動し、食品の仕分けや来場者への説明サポートなどを担った。こうした参加の機会は、若い世代の福祉への関心を高め、地域とのつながりを育むきっかけとなった。

参加者アンケートでは、多くの来場者が「コミュニティフリッジきりしま」への関心を示し、「利用者」や「食品提供者」としての参加意欲も確認された。

映画を通じて、支援の意義と地域のつながりを再認識する機会となった。



映画の上映会イベントには県内外から149名が参加。



地元の高校生がフードドライブの運営にボランティアとして活躍。

事業概況

柱立て 4 事業の報告

本事業の実績や成果を広く普及するため、新たな取組として、令和7年3月にコミュニティフリッジ専用ホームページを制作・公開した。

公開したホームページにおいて、今後、本成果報告書の内容をもとに、事業の取り組みや成果について紹介する。これにより、地域住民や関係機関をはじめ、広く社会に向けて本事業の意義や実績を伝え、共感と理解の促進を図る。



3.

子育て世帯への食料品等の支援

本事業では、経済的困難を抱える子育て世帯に対し、地域の民間団体や企業、個人からの寄付をもとに、食品や日用品を無償で提供する「みんなの公共冷蔵庫（コミュニティフリッジ）」を活用した支援を実施しました。電子キーを用いた入退室管理により、登録利用者が自分のタイミングで安心して必要な物資を受け取ることができる体制を整えています。

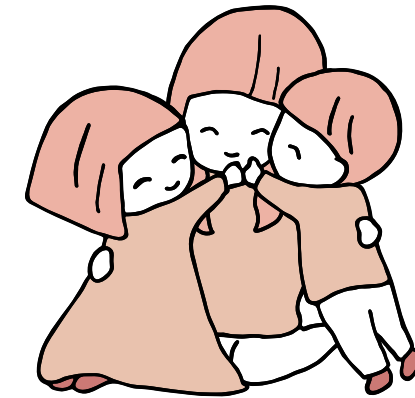


子育て世帯への食料品等の支援

1. 利用登録と支援対象者の状況

- 登録世帯数：15世帯
- 子どもの人数：29人
- 本人を含む総支援対象人数：44人

登録対象は、行政や相談支援機関等からの紹介を通じて児童扶養手当または就学援助等の支援の必要が確認された家庭に限定し、子どもを含む世帯を優先。



2. 寄付の受け入れと納品実績(2025年3月まで)

- 総納品件数：518件
- 総納品個数：1,727個

食品や日用品は、地域住民・企業・団体からの寄付によって受け入れられ、品目や数量に応じて分類・配架。主な納品物は、パン・カップ麺・レトルト食品・缶詰・飲料・お菓子類・衛生用品など、子育て世帯の日常生活に直結するものが中心。

年月	納品件数	納品個数
2024年11月	116件	380個
2024年12月	63件	233個
2025年1月	108件	237個
2025年2月	60件	155個
2025年3月	171件	722個



3. 出庫実績(2025年3月まで)

- 総出庫個数（2024年12月～2025年3月）：1,050個
- 総出庫件数（2024年12月～2025年3月）：99件

寄付・納品された食品・日用品は、登録利用者によって必要に応じて出庫され、出庫数は月を追うごとに増加。2025年3月には過去最多の455個を記録。利用者による定着と需要の高さが伺える。

年月	出庫件数（登録者×日）	出庫個数
2024年12月	9件	113個
2025年1月	16件	182個
2025年2月	30件	300個
2025年3月	44件	455個



4. 利用者の声(抜粋)

「お誕生日に何もしてあげられず、お菓子を2個、コーヒーをひとつ頂きました。息子の満面の笑みを久しぶりに見ることができました。」
— 50代・2児の母

「子供たちに休みの日に3食食べさせてあげれます。寄付してくださる皆様に本当に感謝しております。」 — 40代・4児の母

「パートでの収入だけではとても厳しく不安でしたが、今回この様な場所でみなさまに支えていただけてとても感謝しています。」
— 40代・ひとり親家庭・はじめての利用

「初めて利用しました。お米を始めたくさんのものが高くなっているなか、コミュニティフリッジが霧島にあると知り、とてもありがたく利用させていただきました。みなさまありがとうございます。」 — 40代・2児の母

「子供がお米が好きですが、思ったように食べさせてあげられず困っていたので助かりました。」 — 30代・4児の母

「2回目の利用です、ここでお米や食料品をいただけて、その分でお野菜など買えて、子共に栄養のあるものが食べさせられます。ありがとうございます。」 — 40代・2児の母

「ごはんをむりょうでくださりありがとうございます。こどもたちがじぶんでつくれるものもかんがえてくれてありがとうございます。」
— 児童

4.

成果と今後の展望

本事業を通じて、子育て家庭に対する食の支援体制の確立を目指した。2025年3月までにおける利用行動は延べ99件（1日単位）に達し、提供した物資は合計1,050個となった。

冷蔵庫の仕組みおよび運用の柔軟性は、支援を受ける際の心理的なハードルを下げ、継続的な活用へとつながっている。今後は、こうした取り組みを一過性の支援にとどめることなく、寄付物資の安定供給体制および利用促進の仕組みをさらに強化していく。また、利用者一人ひとりの声に耳を傾け、生活課題に即した柔軟な支援の在り方を模索していく。

あわせて、行政・企業・地域住民との連携を一層深め、地域全体で子どもと家庭を支える環境づくりを推進していきたい。



5. 課題と改善点

本事業の実施にあたり、地域における新たな支援インフラとして一定の成果を上げることができた一方で、いくつかの運営上の課題も明らかとなった。まず、食品等の安定的な確保に課題が残った。特に特定の品目（米、レトルト食品、缶詰など）については需要が集中し、寄付による供給のみでは対応が困難な時期もあった。今後は、個人や企業からの寄付ルートの多様化に加え、定期的なフードドライブや購入型支援（市民による少額支援の仕組みなど）も検討する必要がある。

次に、利用者の拡大と継続利用の促進が課題として挙げられる。登録は15世帯に達したものの、支援を必要としながらも登録や利用に至らない潜在的なニーズが地域に存在していると考えられる。支援に対する「ためらい」をどう払拭するかが、今後の課題である。広報においては、「いつでも気軽に使える冷蔵庫」「参加型の地域活動」というメッセージをさらに明確に打ち出し、利用の心理的ハードルを下げる工夫が必要となる。

また、人的体制の強化も重要な論点である。日々の物資補充や状態確認、登録対応などの業務は、担当職員やボランティアによって支えられているが、負担が一部に偏る傾向が見られた。今後は、スタッフの役割分担の見直し、マニュアルの整備、高校生・地域住民による協力体制の拡充を通じて、より持続可能な運営体制を築く必要がある。さらに、支援の一環として実施した上映会やフードドライブなどのイベントについても、単発ではなく継続的に行う仕組みを模索していくことが求められる。地域全体で支援に対する理解と共感を深めていくためにも、「食」に限らず、暮らしや福祉に関するテーマでの交流の場づくりを検討したい。

6. まとめ

本事業は、制度の狭間に置かれがちな生活に困窮する人に対し、食を通じた新たな支援のかたちを提示する試みであった。行政と民間が連携し、「みんなの公共冷蔵庫（コミュニティフリッジ）」という24時間アクセスできる無償の支援拠点を設けたことで、地域住民の間に支え合いの意識や関心を育む一助となった。利用者からは「必要なときに食べるものがあるという安心感がある」「こどもたちの秘密基地」といった声が寄せられ、単なる物資支援にとどまらない“心の拠り所”としての機能も果たしている。また、上映会や講演会を通じて地域への啓発にも取り組み、支援を「特別なもの」ではなく、「地域の日常の一部」として捉える土壌づくりを推進してきた。まだ発展途上ではあるが、誰もが「支援される側」にも「支援する側」にもなり得るという視点のもと、冷蔵庫を起点としたゆるやかなつながりが芽生え始めている。今後は、持続可能な運営体制の確立と地域参加型の支援ネットワークの拡充に向けて、引き続き取り組みを深めていきたい。本事業を通して得られた学びと経験を礎に、地域の誰もが孤立せず、安心して暮らし続けられる社会の実現に向けて、今後も歩みを進めていく所存である。



PARTNER

協力企業等一覧

本事業をご支援いただく皆さま



フードバンクお助けマン



九州農政局



それぞれのライフスタイルのちょっとずつの「お互いさま」でコミュニティフリッジは支えられます。

コミュニティフリッジきりしまでは、食品や日用品を提供してくださる方を「フードプレゼンター」と呼んでいます。例えば、お中元やお歳暮でいただいた調味料、加工品、洗剤、缶詰、お米など、ご家庭で余っているものを提供いただけます。提供者として登録後、社会福祉法人政典会法人本部へお持ちいただければ、コミュニティフリッジを通じて必要とされる方にお渡しすることができます。

お店や企業様も、棚卸しや季節商品の在庫整理で出た商品、自社製品の一部などをご提供いただければ、同様に必要とする方へお渡しすることができます。また、スマートサプライを通じたインターネット支援も可能で、ご購入いただいたものはそのままコミュニティフリッジを通じて必要な方へ届けられます。

フード
プレゼンター
募集中！



詳しくはコチラ